

おもてなしに融通性を

パッキンマツクンが講演

富士地域労働者福祉協議会(富士・富士宮の両地区労福協)など「富士山の世界遺産登主催の福祉とくらしの録を受けて、地域にどセミナーが18日、富士市のロゼシアターで開かれた。米国人と日本人のお笑いコンビとして活躍するパッキンマツクンが「外国人へのオモテナシ」富士山世界文化遺産登録」と題して講演し、一人一人に合わせたおもてなしの大切さなどを説いた。開会に当たってあい



ユーモアを交えて講演するパッキンマツクン

クン(パトリック・ハーランさん)、群馬県富岡市出身のマツクン(吉田真さん)で構成するお笑いコンビ。

同日のステージでは、2人が漫才や英語でのコントなどを織り交ぜながらユーモアあふれる講演を繰り広げ、多くの市民が笑顔で耳を傾けた。

パッキンは「来日する前から日本のサービスの評判を聞いていたが、日本に来たらまさにその通りだった。携帯電話で謝る時でさえ頭を下げるサラリーマンの姿を見て驚いた」とし、「心を込めて相手に接する日本人の姿勢は素晴らしい、日本のおもてなしは世界一だが、課題もある。メ

ニューにない注文には応じないなど、マニュアルを外れて融通を利かせることができない

点は、西洋人が不満に感じているところ。富士山が世界遺産となり、東京オリンピックの開催が決まり、外国からこれまで以上に多くの人が訪れる。一人一人に合わせて融通を利かせることができれば、日本のおもてなしはもっとすばいくなる」と指摘した。